

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年3月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3990100160
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村
事業所名	グループホーム 大津
所在地	〒781-5103 高知県高知市大津乙922-1
自己評価作成日	平成21年10月10日
評価結果市町村受理日	平成22年3月3日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成21年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員側が生活を決めるのではなく一人ひとりの希望や生活歴を考慮して、意思や気持ちを尊重するようにしている。そのために、入居者本人が自ら動いたり発語できるよう、相手の話を聞ける職員になれるよう努力している。そのことで、入居者の自発性を少しずつ引き出せている。また、一方的にお世話するのでなく共に生活している生活者としての感覚を身につけるよう努力をしている。環境を家庭的に季節の花を飾ったり季節の食物を多く取り入れ季節感を大切にしている。清潔な環境にも力をいれ職員と入居者で楽しんで掃除をし、細かいところは職員がし、清潔感を保つようにしている。開放的なホームをめざし来訪者が来やすい雰囲気づくりを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

主要道路から少し入った住宅やマンション、アパートが混在する住宅地に位置し、近くにはスーパーや青果店、コンビニエンスストアなどがあり、利便性の良い環境にある。1階には併設のデイサービスセンターがあり、2階、3階部分がグループホームとなっている。前回評価の課題であった家族会の取り組みや防災訓練への地域住民の参加について改善されており、家族や地域住民の方々の協力が事業所への理解に繋がるなど、より地域に密着した事業所運営に取り組んでいることが窺える。職員は管理者のリーダーシップのもと、事業所が家庭からの延長線の生活の場であり、これまでの生活習慣を継続することを大切にするケアの実践に努めている。また、事業所の取り組みとして「望まれる職員像」を掲げ職員養成に力を入れている。開所して3年目を迎え、今後の発展が期待され事業所である。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの後管理者、職員と共に事業所の理念を唱和すると共に理解し、それを実践につなげている。	職員は理念を毎朝唱和して認識を高め、職員会やユニット会で具体的に理念が実践できているか話し合っている。また、毎月の目標を掲げて意識やケアの向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、不燃物の当番をしたり、地域の会合や催しに積極的に参加して交流している。日常的にも近くのスーパーに買い物に行ったり散歩をすることで交流している。	町内会に加入し、不燃物当番や町内の行事（文化祭・敬老会・運動会等）に参加している。また、近所の方が花を持ってきてくれたり、買物や散歩時に挨拶するなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行っている「共に支えあう街づくりサポーター養成講座」の介護現場の体験の受け入れや、地域のボランティアの受け入れをしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議で活動報告資料を基にサービスの実際を報告している。そこでの意見や評価をサービスの向上に活かしている。	利用者の入退居、職員の異動、運営の状況、評価結果等について事業所から報告し、参加委員からも意見や質問があるなど、双方向的な会議となっている。また、参加委員から地域の行事等の情報を得る機会ともなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治会、町内会、行事などに参加した時、市町村担当者と会う機会があり、事業所の実情などを伝えている。	地域包括支援センターや市の担当課にケアプランや運営基準等の運用について直接相談し、助言をもらうなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修に積極的に参加し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。また、事例を通して具体的に学ぶ勉強会をしている。	職員は身体拘束に関する研鑽を積み理解を深め、日常の言葉使いや態度、行動の制限など、常に振り返り話し合い、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修や、県、市、自治体で行う研修に積極的に参加している。事業所内でもビデオ学習をしている。日々のケアを振り返り、虐待が見過ごされていないか話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、学ぶ機会を設けている。個々に必要性があれば関係者と話し合い活用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書で十分説明し質問、疑問点を尋ね理解、納得を得ている。解約をする時は、今後のサービスの利用にあたって家族の不安がないよう関係者と連携している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、困っていることや不満が無いかをよく訪ね気楽に苦情を言える雰囲気作りをしている。また、個別に話しをする機会を設け意見を聞いている。聞いたことは運営に反映している。本人が家族に不満を伝えたいときは自由に電話連絡ができる。	家族会は結成されており、行事に併せて開催するようにしている。苦情箱を置いているが今のところ苦情はなく、家族から要望等があった場合は個々に検討し対応している。	家族会を行事の日に併せて行うなど工夫されているが、その際、家族のみで話し合う機会を設けるなど、忌憚のない意見をだしてもらい取り組みを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会や職員会で職員の意見等を聞くようにしている。また、日々のケアの振り返りなど、随時のミーティングでも意見を聞いている。意見等について話し合いケアや運営につなげている。	職員会やユニット会で、ケアの振り返りや毎月の目標の達成、行事計画（外出・誕生日会等）、勤務や業務内容、職員異動等について、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を行い、職員一人ひとりの実績や勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で行われる研修に参加するよう勧めており、個々の力量によってトレーニングできるよう図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内外の同業者との研修や交流する機会を設け、ネットワークづくりを構築している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用前より面接を行い、本人から困っていることや不安なことなどを聞き取り、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用前より面接を行い、家族から困っていることや不安なこと、要望などを聞き取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用前の面接で、今必要としていることが何かを見極め、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は理念を認識し、利用者と一緒に生活する者同士としての関係を作っており、過剰なサービスは控え自立支援に取り組み、利用者から学ぶ姿勢を心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子を伝え、職員と家族が今の状況を共有し、行事等に参加することでより身近に感じていただき、職員と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会を自由にしていただき、また、馴染みの人と馴染みの所へ外出できるよう支援している。良心市、地域のお祭り、スーパーなど利用者一人ひとりが馴染んできた場所へ一緒に出かけている。	家族や親戚の方と馴染みの店で外食したり、行きつけの美容院や墓参りなどに出かけている。また、馴染みの理容店に訪問してもらい整容したり、以前から行っていた量販店や青果店を利用し、知人、友人と交流するなどの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話がスムーズにできるよう、気持ちを代弁したり、難聴の人には仲介してお互いを受け入れ支えあえる関係作りができるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で現在の状況を聞いたり、相談があれば対応するなど、関係を断ち切らないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とよく話し合い、一人ひとりの希望や意向を聞いている。また、生活を共にすることで何を望んでいるか把握するよう努力している。	利用者との会話や仕草から、思いを受け止めるようにしている。困難な場合は、声かけして表情や傾き等で把握したり、家族から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人から話を聞き、今までの生活ぶりや、サービス利用の経過などを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、本人の状態や残っている能力を把握し、気づいたことなど、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成にあたっては、本人、家族、関係者と話し合い、意見を出してもらい、現状を知ったうえで介護計画を作成している。	介護計画は3カ月毎にモニタリングを行い見直すことを基本にしている。計画作成担当者会議には家族も参加しているが、出席できない場合は電話等で事前に意見を聞いている。利用者の状況に変化が合った場合は、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や、気づいたことなどを個別に記録し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画を見直している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>現状を把握しながら、その時々に必要なことに対して柔軟な支援をし、サービスの多機能化を図っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人の意向を聞き必要性があれば地域資源を活用し支援している。近所の文化会館へ出かけた時、警察や消防署の協力も得ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回のかかりつけ医の往診を受け、薬や生活上の留意点などの指示をもらっている。本人、家族の希望に沿って適切な医療が受けられるよう支援している。また、必要に応じて協力病院やその他の医療機関も受診できるよう支援している。</p>	<p>殆どの利用者は、家族の同意を得たうえで協力病院の訪問診療を受診している。検査や専門医への受診は家族の同行を基本としているが、家族の都合によっては職員が対応している。受診結果は看護記録、申送りノートで共有している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師を配置している、日常生活を共にし、介護職員の朝夕の申し送り時に利用者の健康状態の情報交換をしている。情報や気づきを早期に伝えることができる。また、24時間体制で連絡が可能となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医師、看護師、相談員、ケアマネージャーや相談員など病院関係者と連携し、情報を交換している。普段から、病院関係者との情報交換しており関係作りができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成しておりそれをもとに家族と話し合っている。重度化した場合は、早い段階で本人、家族やかかりつけ医との話し合いをし方針を共有している。必要な情報はスタッフも把握している。また、運営推進会など地域の人にも説明しチームで支援に取り組んでいる。	看取りの指針により家族とも話し合い方針を共有しているが、これまで看取りの事例がなく、管理者は職員教育等に課題意識を持ち、本人、家族から看取りの希望があれば、柔軟に対応できる体制づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身につけるよう努めている。利用者の急変や事故発生時のマニュアルを作成し、目に付くところへ貼り、いつでも対応できるように事故防止に取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。利用者は非難できる方法を身につけている。また、地域の人との協力を得られるよう運営推進会議で働きかけている。	避難訓練は、消防署の協力を得た訓練と自主訓練を実施している。運営推進会議の委員を通じて地域の自主防災メンバーの参加、協力を得ている。非常用食料等は高知県社会福祉施設地震防災対策マニュアルで提示された3日分の目安量からすると少ない。	災害時に備える非常用食料等の準備は、高知県社会福祉施設地震防災対策マニュアルを参考に検討されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>排泄の声かけは、本人の耳元で言ったり、失禁時等の時は、さりげなく声をかけ、本人の負担にならないようにしている。居室にはノックをして入るよう心がけている。</p>	<p>個人情報保護に関する職員研修を実施し周知している。利用者には尊厳をもって接し、言葉遣いや居室に入る時の礼儀など、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>一人ひとりが自分のしたいことを口に出せるような関係作りに努めている。日常生活の中でも自己決定できるような声かけを心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務を優先せず、一人ひとりの意思を大切にしながらを希望に沿って過ごしていただけるよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>起床時の整容、また本人の好みの服が着れるよう援助している。女性は、好見に応じてお化粧の声かけや外出や行事の時のおしゃれの援助をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	メニューを一緒に考えたり、買い物や調理、片づけを一緒にすることにより、食事を楽しむことができるよう支援している。	利用者と職員が献立を一緒に考えたり、食材の買物時に旬を感じ、また、利用者の力量に応じた調理の下ごしらえや片付けなど、役割を担っている。職員は調理の担当者が利用者と一緒に食べている。	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	食事量、水分摂取量をチェック表に記入し、栄養バランスを考えている。法人の栄養士に時々アドバイスをもらっている。個々の状態を把握して習慣に応じた食事を提供している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	毎食後、自室の洗面台で口腔ケアができるよう誘導援助している。夜間は義歯を洗浄液に浸し清潔の保持を保っている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	一人ひとりの排泄パターンを知り声かけや誘導により排泄の失敗を減らすようにしている。排泄の自立に向けた介護計画に必要性があれば盛り込んでいる。	できるだけトイレで排泄するよう、誘導や声かけ、見守りなどの介助を行っている。トイレ誘導のタイミングの見直しで失禁回数が少なくなった事例など、個々の状態に応じた自立支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量をチェックし、少ない方にはまめに好きな飲み物を勧め、無理なく摂取できるよう配慮している。繊維を多く含む食物を取り入れたり、散歩や運動を励行し便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるよう準備をしておき、本人の希望の時間にいつでも入れる体制を整えている。	毎日午前中から夜間8時頃までの間、いつでも入浴できるようにしている。現在、夜間浴の希望者はいない。入浴を拒否する利用者にはタイミングをみて声かけし、週に2回ほど入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、入床、起床の援助を行っている。本人の体調に合わせて自室やソファで休んだり、リラックスできる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用、用量は薬の一覧表を作成しいつでも見れるようにしている。事業所内で勉強会を実施している。服薬は勤務者によって決めており、ポシェットにその都度入れ確認しながら服薬援助している。症状の変化にも気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	生活歴や残っている能力によって役割を見つけ、自信につなげていけるよう配慮している。嗜好品や希望を知り喜びのある生活が送れるよう努めている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	毎日、戸外に出かける声かけをしており、一人ひとりの希望に沿って出ている。面会に来る家族と一緒に外出できるよう援助している。地域の行事、祭りに参加している。	毎日、事業所周辺の散歩や、畑の野菜に水やりをするなど、外の空気に触れる支援をしている。また、毎月各地に四季折々の花見や地域の行事、お祭り等に車椅子の利用者も一緒にドライブに出かけたり、2カ月毎に利用者全員でレストラン等に外出に出かけている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	家族に協力をしてもらい、一人ひとりの能力に応じてお小遣いを所持しており、個別に買い物ができるように支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	本人が電話をかけたい時は、ホームの電話を利用してもらっている。知人から手紙が着たらすぐに手渡し、返事を出したい利用者と一緒にポストに投函しに行くなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>照明は、その日の状況に応じて、明かり過ぎず暗すぎないように調節している。また、職員の声が大きすぎないように配慮している。温度調節をまめに行っている。季節の花や季節感のある環境づくりに配慮をしている</p>	<p>玄関には生花が活けられ、手作りの暖簾や装飾に和やかさや落ち着きがある。居間には座り心地の良いソファが置かれ、壁面の季節感のある飾りつけに工夫がみられる。また、台所にいる職員とも対話しながら、調理する音や匂いに家庭的で生活感のある共用空間となっている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>家庭にいるような雰囲気作りをしている。心地のよい音やにおいに配慮している。それぞれの居場所で思い思いに過ごせるよう工夫をしている。</p>			
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭で使っていた物を持ち込み、家族の写真や飾り物などを居室に取り入れ、使いやすいように工夫している。</p>	<p>タンスやソファなどの家具類が置かれ、家族の写真や家族が持参した飾り物など、利用者が思い思いにくつろげる居室づくりに配慮している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>室内は、場所を示す絵や文字で分かりやすいようにしている。居室の入り口はそれぞれ家族が飾り物で表示している。安全な生活ができるよう配慮している。</p>			

V アウトカム項目		ユニット名： のぎく	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11. 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	職員は、朝礼時に理念を復唱し、認識を深めて共有し、実践に努めている。		
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	町内会に入会し、不燃物の当番をしたり、地域の会合や催しに積極的に参加して交流している。日常的にも近くのスーパーに買い物に行ったり散歩をすることで交流している。		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	地域で行っている「共に支えあう街づくりサポーター養成講座」の介護現場の体験の受け入れや、地域のボランティアの受け入れをしている。		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2カ月に1回、運営推進会議で活動報告資料を基にサービスの実態を報告している。そこでの意見や評価をサービスの向上に活かしている。		
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	自治会、町内会、行事などに参加した時、市町村担当者と会う機会があり、事業所の実情などを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての学習をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に、言葉の拘束について何気ない言葉で相手を傷つけないよう気をつけている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加できる機会を多く持ち、虐待が見過ごされないように注意を払っている。事業所内ではビデオ研修で学び、日々を振り返り話し合う機会を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する研修会に参加し、学ぶ機会を設けている。個々に必要性があれば関係者と話し合い活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書、重要事項説明書で十分説明し質問、疑問点を尋ね理解、納得を得ている。解約をする時は、今後のサービスの利用にあたって家族の不安がないよう関係者と連携している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>困っていることや不安が無いかをお聞きし気楽に苦情を言える雰囲気作りをしている。また、個別に話しをする機会を設け意見を聞き、運営に反映させている。本人が家族に不満を伝えたいときは自由に電話連絡ができるようにしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のユニット会や職員会で職員の意見等を聞くようにしている。また、日々のケアの振り返りなど、随時のミーティングでも意見を聞いている。意見等について話し合いケアや運営につなげている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回、人事考課を行い、職員一人ひとりの実績や勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外で行われる研修に参加するよう勧めており、個々の力量によってトレーニングできるよう図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>法人内外の同業者との研修や交流する機会を設け、ネットワークづくりを構築している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用前より面接を行い、本人から困っていることや不安なことを聞き取り、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用前より面接を行い、家族から困っていることや不安なこと、要望などを聞き取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用前の面接で、今必要としていることが何かを見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する関係を築いており利用者を一方向的に介護しないよう努めている。過剰なサービスは控え自立支援に取り組み相手から学ぶ姿勢に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子を伝え、職員と家族が今の状況を共有し、行事等に参加することでより身近に感じていただき、職員と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームでのイベントや外出に出かける場合などではできるだけ家族の方に参加してもらえるように連絡を取っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を大切にコミュニケーションを図れるよう援助している。一緒にレクレーションをして時間の共有をしたり、難聴のある利用者に対してはスタッフが中に入り会話を伝達している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で現在の状況を聞いたり、相談があれば対応するなど、関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とよく話し合い、一人ひとりの希望や意向を聞いている。また、生活を共にすることで何を望んでいるか把握するよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人から話しを聞き、今までの生活ぶりや、サービス利用の経過などを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に生活することで現状を把握し、心身の変化やもっている能力を知り、アセスメントをし把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成にあたっては、本人、家族、関係者と話し合い、意見を出してもらい、現状を知ったうえで介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアの実践は個別記録に記入している。また、職員間で情報を申し送り時や、申し送りノートで共有できている。それらの情報は介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組むように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域の情報を知り、安全で豊かな暮らしを楽しむように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回、診療所からの往診を受け体調管理を行っており、受診が必要な場合は、本人や家族の希望を大切にして協力病院やその他の医療機関で受診できるように支援している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>24時間体制で看護師と連絡が取れるようになっている。朝礼等の申し送り時以外にも、気づいたことや気になる点等、相談、情報交換を密に行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院先の医師、看護師、相談員と情報交換を行いながら、早期退院への調整を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの指針を作成しておりそれを基に家族などと話し合っている。重度化した場合は、早い段階で本人、家族やかかりつけ医との話し合いをし方針の共有をしている。必要な情報はスタッフも把握している。また、運営推進会など地域の人にも説明しチームで支援に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを目の届くところへわかりやすく掲示し、迅速に対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し、災害の際は迅速に対応できるようにしている。地域の人にも協力していただけるよう運営推進会議を通じて呼びかけ、実現している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が常に目にしやすい所に留意事項を掲示し、自身のケアを振り返るようにしている。職員会や申し送り時に事例を話し合っって誇りやプライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手の言葉をさえぎらず、最後まで傾聴することにより、思いを汲み取り支援している。言葉で表現しにくい場合は、職員がいくつか提案し選んでもらうなど、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援するように心がけている。本人の希望や思いを引き出せるような声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、今日はどの服を着るのか問いかけ、本人のお気に入りを着て頂くようにし、外出時は女性としての身だしなみ(化粧・髪)を整えたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々に応じ、メニューを考えてもらい、食べたいものは何かを問いかけ、食事の準備を一緒にするなど、本人ができる範囲での場面づくりの支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表に記入し、個人の食事摂取量を把握している。1週間を通じ同じメニューにならないようメニュー表を見ながら考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後居室へ誘導し、口腔ケアの見守りをしている。義歯が洗浄できない場合はスタッフが声かけをしながら一緒に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄のパターンを知り、時間毎にトイレ誘導を行ったり、声がけをし、排泄の自立に向けた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量の確認を行っている。気の合う利用者や、スタッフと共に楽しみながら飲んでいる。、好みの飲み物を提供をしたり、呑みにくい人には一回量を少なめにし回数を増やして対応している。食事面では繊維質のものを多く取れるようにしている。また、散歩や毎日の体操など運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望の時間に合わせ、拒否があるときは時間を置いてから誘うなど工夫している。お湯の温度、量など個人の希望に配慮している。また、希望に合わせてゆず湯や菖蒲湯なども楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望に合わせて、入床介助している。夕食後から就寝までは飲み物などの提供し、リラックスして過ごしていただけるよう配慮している。日中も体調に応じて午睡の時間を設けたり、散歩、体操など適度な運動を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は医師の指示通り服用している。薬の効用、副作用については一覧のファイルに閉じ、いつでもスタッフが見られるようにしている。服用時は、日付、氏名、時間を声だし確認し、事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などを通じて役割を持てるよう支援している。また、園芸、書道、散歩(買い物)、読書など、本人の好みに合わせて楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気が良い日には近所を散歩したり、敷地の畑で交代で水やりをしている。また、外食やドライブ、買い物などに誘ったりして外出する機会を作っている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分でお金を所持されている入居者は、一緒にスーパーやコンビニエンスストア、良心市などへ行き、選んで買ってきている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人が電話をしたいときはホームの電話を使用し話をしてもらっている。手紙を書いた時は、預かったり、また、一緒にポストまで行き投函している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度、照明、光の調節、換気などに気をつけている。季節の花を飾り、視覚的にも楽しみ和むよう工夫している。共有空間でも、それぞれの居場所を確保しており、落ち着いて暮らせるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂やリビングなどにそれぞれの居場所があり、気の合う仲間と会話したり、一人が好きなのは居室で過ごしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、家で使っていたものを持ち込んでもらったり、馴染みのあるものを置いている。本人が落ち着けるよう家族の協力もあり、本人にとって居心地がよい空間になっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりできることを理解し、その日の気分や体調に合わせた家事や仕事ができるよう見守り、安全で自立した生活が送れるよう援助している。</p>		

V アウトカム項目		ユニット名： あじさい	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない